

2024年8月11日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**
第67巻第20号(通算3402号)
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう

週報

教会標語

小さくされている人を
大切に^{たいせつ}する^{きょうかい}教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>

【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切に^{たいせつ}にする神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマの人々への手紙5:5)

せいれいこうりんせつ

聖霊降臨節

だい しゅじつれいはい

第13主日礼拝

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂けます》

前奏(黙禱) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

招きの詞 詩編 15編 1-5節

賛美歌 21-211番「あさかぜしずかにふきて」(©JASRAC)

聖書 ヨハネによる福音書 7章 40-52節

お祈り
賛美歌 21-494番「ガリラヤの風」(©JASRAC)

メッセージ 「なにか違う」 水谷 憲 牧師

賛美歌 21-438番「若き預言者」(©著作権消滅)

主の祈り 62番「天にいます わたしたちの父」(©教団讚美歌改訂委員会)

献げ物 (*)

派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

祝福 水谷 憲 牧師

後奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©教団讚美歌委員会)

報告 (4頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

* 受付に献金箱がございます。

「献げ物(献金)」はご用意のある方のみ、お献げください。

招きの詞 詩編 15編 1-5節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

1 賛歌。ダビデの詩。

主よ、誰があなたの幕屋にとどまり／聖なる山に宿ることができるのでしょうか。

2 それは、全き道を歩み、義を行い／心の中で真実を語る者。

3 舌で人を傷つけず／友に災いをもたらず／隣人をそしることもない。

4 彼は主の目に 蔑まれる者を退け／主を畏れる者を尊ぶ。

不利益な誓いでも 翻しはしない。

5 利息を取って金を貸さず／賄賂を取って罪なき人を苦しめない。

これを行う人はとこしえに揺らぐことがない。

聖書 ヨハネによる福音書 7章40-52節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

40 この言葉を聞いて、群衆の中には、「この人は、本当にあの預言者だ」と言う者や、41 「この人はメシアだ」と言う者がいたが、このように言う者もいた。「メシアがガリラヤなどから出るだろうか。42 メシアはダビデの子孫で、ダビデのいた村ベツレヘムから出ると、聖書に書いてあるではないか。」43 こうして、イエスのことで群衆の間に対立が生じた。44 その中にはイエスを捕らえようと思う者もいたが、手をかける者はなかった。

45 さて、祭司長たちやファリサイ派の人々は、下役たちが戻って来たとき、「どうして、あの男を連れて来なかったのか」と言った。46 下役たちは、「今まで、あの人のように話した人はいません」と答えた。47 すると、ファリサイ派の人々は言った。「お前たちまでも惑わされたのか。48 議員やファリサイ派の人々の中に、あの男を信じた者がいるだろうか。49 だが、律法を知らないこの群衆は、呪われている。」50 彼らの中の一人で、以前イエスを訪ねたことのあるニコデモが言った。51 「我々の律法によれば、まず本人から事情を聞き、何をしたかを確かめたうえでなければ、判決を下してはならないことになっているではないか。」52 彼らは答えて言った。「あなたもガリラヤ出身なのか。よく調べてみなさい。ガリラヤからは預言者が出ないことが分かる。」



《先週のメッセージより》8月4日 平和聖日礼拝

「平和に生きる」より

牛田匡牧師

聖書 ヨハネの手紙Ⅰ 4章16節－5章5節

今日は「平和聖日」です。先月末からパリでオリンピックが開催されていますが、国家間のいわゆる「代理戦争」として、スポーツ競技で国同士が競い合い、メダルが争われているだけではなく、今も尚実際に「代理」ではない戦争、人々の命が奪われている戦争が、世界の各地で続けられています。また爆弾や銃弾が飛んで来なくても、住む家を失い、食べる物を失い、他人とのつながりを失い、今日を生きるに事欠く人たちも、世界中のあちこちに大勢おられます。果たしてこのような状態を「平和」だと、誰が言えるのでしょうか。「平和」というのは、単に国同士の戦争が止んでいる状況ということだけではないはずです。聖書で言う「平和」は、「欠けている所がない」状態、過不足なく均衡のとれた状態のことを指す言葉です。そのような完全にバランスのとれた世界の実現を目指すにはどうしたらよいのでしょうか。この世界を支えている根底にあるものとは、一体何なのでしょう。

今回の聖書の言葉には、「目の前の人を大切にすることが、神の戒め（掟）であり、それこそが神を大切にすることに他ならない」ということが記されていました。また「私たちは信仰によって、もうすでに世に勝っている」とも言われていました。ここで言われている「世に勝つ」とは、「信仰の結果として、世の価値観に流されないでいられることがある」ということなのではないかと思います。「信仰」とは、単に口で、「神様を信じています」と言うことではなく、実際に身近な人たちに対してその人たちを大切にするように行動することです。イエス様がその身をもって示して下さったように、私たちにもそうすることができる、その能力が与えられているということに信頼して、勇気をもって一步を踏み出してみる。そこに世の価値観に流されたりしない秘訣はあるのではないのでしょうか。この現実の世界は、右か左かどこに正解があるのかが分からない、混迷を深めるばかりの世界です。平和を望むと言いながら多くの人々の血が流され、「あなたのために」と言って暴力が振るわれています。矛盾に満ちた、出口の見えない世の中にあっても、迷ったり、諦めてしまったりせずに、活路を見出していく。そのために目の前の一人一人に向き合い、その人をその人として大切にしていこう……。本当の活路、私たちが互いに「平和に生きる」道はそこからしか始まらないのではないのでしょうか。この平和聖日に、私たち一人一人が、平和を創り出す者として、送り出されて歩み出して参ります。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 8月4日 平和聖日礼拝

礼拝出席 大人6名 献金 大人5,000円 中継視聴者数15回 感謝
久宝まぶね保育園の卒園児であった さんが、初めて来会されました。
8月期の「教会を考える会」はお休みでありませんでした。

◎ 次週 2024年8月18日(日) 聖霊降臨節第14主日礼拝

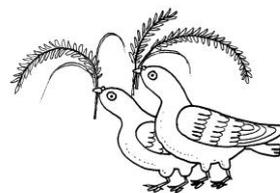
招きの詞 ローマの信徒への手紙 7章 6節

聖書 ヨハネによる福音書 8章 1-11節

メッセージ 「何が罪か、法より大切なもの」 牛田匡牧師

賛美歌 21-481番 (©P.D.)、21-444番 (©出版局)、21-423番 (©JASRAC)

礼拝後に釜ヶ崎支援のための「おにぎり支援」を行います。どなたでもご参加ください。



◎ お知らせ

- ・これまでの「週報」や「メッセージ(全文)」は、ホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分をYouTubeでご覧いただくことも可能です。
- ・8月1日(木)～25日(日)にかけて、高石教会にて、平和月間特別写真展「川の記憶 ～ヒロシマ 今も忘れない～」が開催されています。入場料は無料で、どなたでもご鑑賞いただけます。開館日時は木・金・土曜日の9時から17時までで、8月16・17日は閉館です。高石教会のウェブサイトは右のQRコード。



- ・8月15日(木) 17時半～19時半に東梅田教会にて、「教会と天皇制を考える」特別委員会主催の連続講座第2回「広島からキリスト教会の戦争協力、被爆、平和について考える」が開催されます。発題者は向井希夫さん(広島流川教会牧師)です。

東梅田教会での対面参加の他、ZOOMを利用したのオンライン参加も可能です。オンライン参加をご希望の方は前日14日(水)までに、「教会と天皇制」を考える特別委員会の委員長にまでメールでお申込み下さい。

uccj.osaka.2.11@gmail.com



◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
8/18	牛田匡牧師	おにぎり支援
8/25	水谷憲牧師	誕生者祝福式
9/1	牛田匡牧師	ユウカリスト・教会を考える会
9/8	水谷憲牧師	

「教会と天皇制」
を考える特別委員会
連続講座第2回

「広島からキリスト教会の
戦争協力、被爆、平和について考える」

発題者: 向井希夫さん
(広島流川教会牧師・元大阪教区総会議長)

1945年8月6日、広島流川教会、そして広島市内の教会は被爆しました。しかし、「8.6」は突然来たのではなく、その時へと至る歩みがありました。わずかに残された戦前の週報を見ると、「国民儀礼」、「金属回収運動に協力しましょう」、「聖戦必勝祈禱報告会開催さる」等の記述が見られます。

被爆、敗戦、戦後の歩みの中で、教会は、本当の意味で歴史と向き合うことができたのでしょうか。その上で平和への歩みを始めることができているのでしょうか。皆さまとじっくり考えることができればと思います。

関連して、わたし自身が11年間大阪教区議長を務めさせていただいたとき、「本当の意味で歴史と向き合うことができたの」かについても大阪教区の皆さまと考えることができれば幸いです。

2024年8月15日(木) 17:30-19:30
会場: 日本キリスト教団東梅田教会

参加方法: 対面およびオンライン(zoom)
zoom参加される方は「教会と天皇制」を考える特別委員会の山下社起委員長に下記のメールアドレスにお申し込みください。

アドレス: uccj.osaka.2.11@gmail.com
締切: 8/14(水)まで

主催: 「教会と天皇制」を考える特別委員会